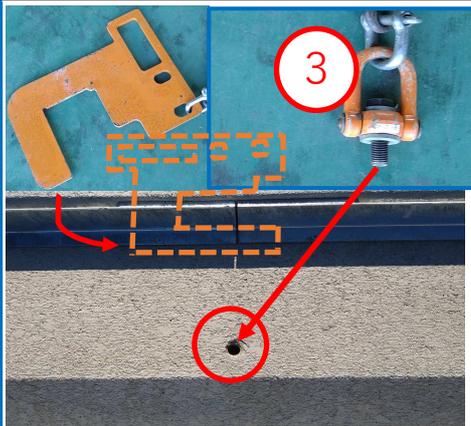
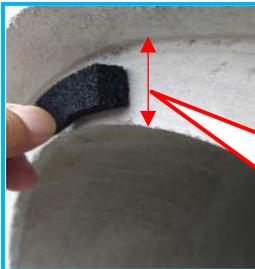
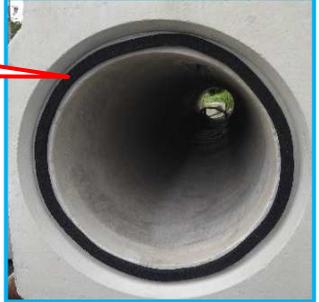
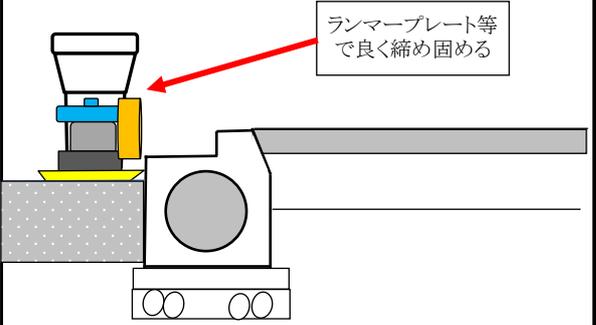


箱形パイプ JS-40VⅢ 施工要領書

番号	項目	要領
1	吊り方	<p>*用意して頂くもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤー 2本 (φ10mm以上×1m～3m、外れ止めフック付) ・シャックル 1ケ (2トン以上)       <p>専用吊り具</p> <p>*落下防止のため、必ず2点吊りをお願いします。</p>
2	布設準備	<p>接合部の止水</p> <p>* 止水材の名称 オプシーラー [合成ゴム発泡体シール材]</p>    <p>オプシーラー</p> <p>結び目を上部に</p> <p>ソケット側フラット面の中央に貼付</p>

2	布設準備	オブシーラー サイズ	備考
		t 10×15×1000	・直線部製品標準セット品
		t 15×20×1000	・直線部、曲線部製品標準セット品 ・エスフリー用桷標準セット品
		t 25×15×1000	・曲線部で目地が大きい場合
		t 40×15×1000	・半管を18Rで使用する等
(1接合当りに必要な シール材の本数)			
		呼び径	1ヶ所当たりの必要本数
		φ 400	1.5 本
① ウェス等で、オブシーラーを貼付けるソケット面のホコリを落として下さい。			
② オブシーラーのはく離紙を剥がし、写真の様につなぎ目が上にくる様に貼付けて下さい。			
③ 目地の開きは、通常1～2mm程度で、最大7～8mmを限度とします。それ以上の開きが見込まれる場合はカーブ材のご使用をご検討下さい。			

3	布設	コンクリート基礎	砕石基礎
		① 丁張りは、車道側の天端に合わせて下さい。又、ヌキ板等で作った水平定規を使用すると便利です。	
		② 基礎コンクリートの上に敷きモルタルを敷き、箱形を布設します。	② 砕石基礎の場合は転圧後、モルタルで高さの微調整を行って下さい。
		③ 接合時に、敷きモルタルがかまないようにご注意下さい。	*別売のプレートを、接合部に使用しますと、施工がスムーズに行えます。
		④ 高さの微調整をキャンバー等で行った後、箱形底部にすき間ができないようモルタルをつめ込んで下さい。	
⑤ 目地の開きは通常1～2mmです。カーブ部等で目地が大きく開く場合にはモルタル目地を施して下さい。			
⑥ 箱形は、右車線用・左車線用の区別がありませんので、反対車線ではオス・メスが逆になります。上流側下流側どちらからでも施工できます。			

4	長さ調整	<p>① 長さ調整で箱形を切断した場合は、コンクリート断面及び金具断面にエポキシ系の塗料等で防錆処置をお願いします。</p> <p>* スリット開口部を補強する場合や切断した金具の固定方法など、お困りの時はご相談下さい。</p>	
5	埋め戻し	<p>① 埋戻しは、沈下防止のためよく締め固めて下さい。</p> <p>② 表層の舗装時には、ローラーが箱形の縁辺に乗らないように少し高めに施して下さい。</p>	
6	目地込み	<p>① 雑草防止のため、右の図のように歩車道境界ブロックと、箱形パイプの隙間は目地込み（モルタルの充填）をして下さい。</p> <p>* 目地込み箇所以外のモルタル付着を防止するために養生テープのご使用をお勧めします。</p>	